

仮称《人民委員評議会》(Rat der Volksbeauftragten)が成立し、新しい憲法の草案作成の任に当たったべき人物として選出されたフーゴ・プロイス (Hugo Preuß; 1860-1925) はさっそく同年12月に、マックス・ヴェーバー (Max Weber; 1864-1920) などからなる小委員会を構成してその意見を聞き、草案を作成した。翌1919年1月19日に行われた憲法制定国民議会選挙の翌日(20日)に公表されたプロイス草案が、ヴァイマルの劇場を会場とする国民議会において審議されることになる。その過程には紆余曲折があったが、7月31日の国民議会本会議で票決の結果、賛成262票、反対75(棄権1)で可決され、8月11日に初代大統領エーベルト (Friedrich Ebert; 1871-1925) により認証され、同月14日の公布と同時に発効した。これがヴァイマル憲法 (Weimarer Reichsverfassung) ——正式にはこれもドイツ・ライヒ憲法 (Verfassung des Deutschen Reichs) という——である。

ヴァイマル憲法は全部で181箇条に及ぶ大法典で、全体が「ドイツ国の構造および任務」と題された第1編と「ドイツ人の基本権及び基本義務」と題された第2編、及び「経過規定及び付則」から構成されている。その前文にはこの憲法が民定憲法であることが明記されている。この憲法もその後いく度か改正されたが、それらの改正よりも大きな意味をもったのは、すぐあとで触れるように、改正条項を明記することなく、憲法改正に必要なライヒ議会の3分の2の多数の賛成で可決された法律が、憲法改正と同じ効力をもつものとされることによって実質的には憲法を廃棄する結果となったことである。

## 7 ナチス・ドイツの憲法 (1933～1934年) ——本書154頁以下

第一次大戦におけるドイツの敗北によって1919年6月28日に締結された《ヴェルサイユ条約》には、ドイツにとつてはきわめて屈辱的な内容が盛り込まれていた。これがドイツにとつて極めて大きな不満をもたすこととなり、それが、ヴァイマル体制の崩壊の大きな誘因となったといえる。

ヴァイマル共和国の初期はテロと一揆があいつぐ不安定期であったが、第2期の1924年頃になって、経済的にも安定期に入ったドイツは国際連盟に加入 (1926年) して国際的にも地位を改善した。しかし1929年の世界恐慌に

## 7 ナチス・ドイツの憲法 (1933～1934年)

始まる第3期に入ると、失業者が増大し、ナチス党 (民族社会主義ドイツ労働者党) と共産党が急速に勢力を伸ばしていく。とくにナチス党は1930年9月14日の選挙では一挙に社会民主党について第2党となり、さらに1932年には得票数が倍増してついに第1党に躍進した。その後、1932年11月の選挙ではナチス党の議席数はいったん減少し、同年12月3日にはシュライヒャー内閣が成立するが、この内閣はたった2ヵ月足らずで翌1933年1月30日にはヒトラー (Adolf Hitler; 1889-1945) に取って代われ、2月1日にはライヒ議会が解散され、同年3月5日のヴァイマル共和国最後の選挙では一大躍進し、いわゆる《ヒトラーの時代》に移ることになる。

1933年2月28日に大統領 Hindenburg (Paul Ludwig Hans Anton von Beneckendorff und von Hindenburg; 1847-1934) が出した緊急命令は「民族と国家を保護するためのライヒ大統領の命令」(Verordnung des Reichspräsidenten zum Schutz von Volk und Staat) という。これはヴァイマル憲法第48条第2項の定める大統領の非常措置権が発動されたもので、これにより同項の列挙するすべての基本権が停止された。

3月24日に成立した全権委任法 (または授權法) は、正式名称を「民族及び国家の危急を除去するための法律」(Gesetz zur Behebung der Not von Volk und Reich) という。ここにある「民族とライヒの危急」という表現は、すでに1923年12月8日の授權法 (RGBl. 1923 I S. 1179) の中に見られる文言に由来するものである。当時のライヒ議会の総議席数は647で、ナチスの議席数は288であったから、単独では過半数も制し得ない情勢であったが、この議決には国民党等の協力を得て、共産党議員らを排除・逮捕したり脅迫・欺罔したりして、憲法の改正に必要な議会の3分の2以上の多数決 (441対94) でこれを可決した (反対は社会民主党のみ)。この法律は、ヴァイマル憲法の改正手続を経て「合法」に制定されたが、この法律により、ライヒ議会はよる立法によらなくとも、政府によって議決することができることとなり、しかも内容的にも憲法に違背することが許されたとされた。これによってヴァイマル憲法の議会制は実質上崩壊したことになる。この法律は規定上は1937年4月1日で失効することになっていたが、その後、1937年1月30日と1939年1月30日の法律で1943年5月10日まで効力が延長され、さらにヒトラーの命令で当分の間、延期された。

この全権委任法によって次々と政府制定による法律が成立した。すなわち3月31日には「第一均制化法律」たる「諸ラントとライヒとの均制化に関する暫定法律」(Vorläufiges Gesetz zur Gleichschaltung der Länder mit dem Reich), 続いて4月7日には「第二均制化法律」(Zweites Gesetz zur Gleichschaltung der Länder mit dem Reich)とも呼ばれる「ライヒ総督法」(Reichsstatthaltergesetz)ができ、同日にはさらにユダヤ人を公務員の地位から排斥する反ユダヤ主義立法としての「職業官吏制度再建法」(Gesetz zur Wiederherstellung des Berufsbeamtentums)が作られた。また同年7月14日の「新政党設立禁止法」(Gesetz gegen die Neubildung von Parteien)と12月1日の「党と国家との統一の確保に関する法律」(Gesetz zur Sicherung der Einheit von Partei und Staat)により、ナチスの一党独裁が確立した。そして同年10月にはヒトラーは国際連盟を脱退したが、11月12日の選挙では投票総数の88%がナチスを支持した。続いて翌1934年には、ヒンデンブルク大統領の死去(8月2日)の前日に作られた「国家元首法」(Gesetz über das Oberhaupt des Deutschen Reichs)によって、ヒトラーは大統領とライヒ首相との地位を一元化し、さらにこれに先立つ同年1月30日の「ライヒ改造法」(Gesetz über den Neuaufbau des Reichs)では、ラント政府をライヒ政府に従属させ、かつラント議會を廃止し、また、同年2月14日の「ライヒ参議院廃止法」によりライヒ参議院も廃止してしまつた。ヒトラー政府によってライヒ議會の議決を経ずに制定されたこれら一連の法律によって、ヴァイマル憲法の立憲主義は完全に葬られてしまうことになる。

1939年9月1日のナチス・ドイツ軍によるポーランド進攻で始まつた第二次世界大戦で敗北したドイツは1945年5月8日、無条件降伏し、ヴァイマル憲法は全面的に失効する。

本書では、上記のヒンデンブルクによる緊急命令を初めとして、ナチス初期の主要な法律を訳出するに留めた。

## 8 ボン基本法 (1949年5月23日) ——本書212頁以下

ドイツの降伏以前に、戦後のドイツのありかたについて、すでに英米仏ソの4国の基本的な合意が成立しており、同年8月30日にドイツ全体につい

### 〈編訳者紹介〉

高田 敏 (たかだ・びん)

大阪大学名誉教授

初宿 正典 (しやけ・まさのり)

京都大学大学院法学研究科教授



### ドイツ憲法集 (第6版)

1994年 (平成6年) 9月20日	第1版第1刷発行
1997年 (平成9年) 3月20日	第2版第1刷発行
2001年 (平成13年) 5月10日	第3版第1刷発行
2005年 (平成17年) 4月10日	第4版第1刷発行
2007年 (平成19年) 8月5日	第5版第1刷発行
2010年 (平成22年) 3月25日	第6版第1刷発行

編訳者 高田 敏  
初宿 正典

発行者 今井 渡辺 左近 費

発行所 信山社出版株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷6-2-9-102

電話 03 (3818) 1019

FAX 03 (3818) 0344

Printed in Japan.

© 高田敏, 初宿正典 2010. 印刷・製本 / 東洋印刷・渋谷文泉閣  
ISBN978-4-7972-2418-4 C3332